

番号	質問	回答
1	サポートルームと迷っていますが、どちらにした方がよいのでしょうか。	在籍学級での学習に概ね参加できている場合は、サポートルームにおける巡回指導を受けている児童・生徒が対象となります。自閉症や情緒障害のために在籍学級での授業に参加できず、特別支援教室を利用できない児童・生徒も対象です。
2	自閉症・情緒障害特別支援学級とつばさ教室の違いはどのようなところでしょうか。	つばさ教室は、不登校の児童・生徒が利用する校外の居場所になります。
3	自閉症・情緒障害特別支援学級、知的障害特別支援学級との違いを知りたいです。	自閉症・情緒特別支援学級の入級対象は、自閉症または情緒障害があるお子さんが対象です。情緒障害は、選択性緘黙または場面緘黙を指しています。知的障害特別支援学級は知的機能の発達に軽度の遅れが認められる児童・生徒を対象としています。
4	対人関係に困難があるが、判断が結構難しいと思っています。親に見せる顔と学校の顔は違います。どこで判断すればよいのでしょうか。	学校での状況を把握しているのは学校の先生であるため、普通の授業やクラスでの関わりの中での状況を聞きたい旨を、まずは在籍校へご相談をお願いします。
5	不安分離症は入級の対象になりますでしょうか。	入級対象は、自閉症または情緒障害があるお子さんが対象です。どちらかの診断があることを、診断書で確認させていただきます。情緒障害は、選択性緘黙または場面緘黙を指しています。
6	自閉症または情緒障害によって通常の授業に参加できていない、サポートルームの利用ができない場合は、サポートルームを利用していなくても申込できますでしょうか。	自閉症や情緒障害のために在籍学級での授業に参加できず、特別支援教室(サポートルーム)を利用できない児童・生徒も対象です。ただし、在籍学級での学習におおむね参加できている場合は、サポートルームにおける巡回指導を受けている児童・生徒が対象となります。
7	道塚小は何人くらい入級できるのか？ 大森東、嶺町小についても入級できる枠があるのか知りたい。	道塚小学校は2学級(16名)までが定員です。大森東小は2学級(16名)まで、嶺町小は1学級(8名)までが定員ですが、定員から在籍人数を引いた人数が転学可能数となります。なお、大森東小は現時点で13名、嶺町小は6名の児童が在籍しています。在籍人数については卒業や転出等で変動する可能性があります。
8	蒲田中学校を検討していますが、1学年で3学級でしょうか。	3学年併せての学級数となります。そのため、1～3年の全学年併せて最大3学級、24名が定員となります。
9	蒲田中学校の令和8年度入級可能人数はどのくらいでしょうか。	現時点では、蒲田中学校に14名の生徒が在籍しております。在籍人数については卒業や転出の可能性もあるので、人数は変動することが考えられますが、24名から在籍数を引いた枠が、令和8年度に入級できるということになります。
10	応募者が次年度の入級可能人数よりも多かった場合の選定基準はありますか。単純に抽選ですか。	まずは、就学支援委員会において入級が適切かどうかを判定させていただきます。そこで適切と判定された方が定員の枠を超えた場合は、診断書及び発達検査、行動観察の内容等をもとに総合的に判断して入級者を決定することになります。そのため抽選ではございません。
11	学童の申込を検討しているが、学童の申込は11月頃だと思っています。学童との連携はどうなっていますでしょうか。	自閉症・情緒障害の結果については、11月中にお出しする予定です。申込に間に合わない場合は、自閉症・情緒障害特別支援学級に入級する予定として学童をお申し込みいただき、入級の結果により、学童の希望施設を変更する手続き等をしていただくこととなります。
12	発達検査は具体的にどのような発達検査でしょうか。 就学前にWISC-IV知能検査を受けたのですが、こちらの検査で問題ないのでしょうか。	WISC-IVの検査で問題ありません。

13	ASD自閉症という診断を受けていますが、これは自閉症という理解でよろしいでしょうか。	ASDは自閉症という理解で問題ありません。
14	発達検査が令和5年度以前のものなので取り直したいのですが、池上会館の教育センターで再度取得することは可能でしょうか。	教育センターでは検査のみの実施は行っておりませんので、病院などでお取 りいただき、ご提出いただくことになります。
15	医師の診断書と発達検査はいつ以降のものが必要でしょうか。	発達検査は令和5年4月1日以降のものをお願いしております。医師の診断書につきましては、お子様の現在の状況等が変わっていなければ、令和5年度以前のものでも構いません。
16	1学級というのは、1～6年を併せて8人となるのでしょうか。	小学校の場合は、新入生の入級は認めていないため、2～6年を合わせた人数となります。 道塚小学校の場合は、2～6年生で、2学級16名が定員となります。 なお、中学校の場合は、1～3学年合わせた人数となります。
17	引っ越しをした場合や、入級後に現在通っている学校よりも、近隣に自閉症・情緒障害学級ができた場合、転学することは可能でしょうか。	新規で申込することは可能です。ただし、転学予定先も定員が決まっておりますので、確実に入級できるものではございません。 また、現在自閉症・情緒特別支援学級に在籍していることにより優先的に入級できるものではございません。就学相談・就学支援委員会を経て決定となります。
18	自閉症の診断とLD(学習障害)の診断がありますが、入級可能でしょうか。	自閉症の診断がありましたら、入級の対象となります。 ADHDやLD単独の診断名では対象になりません。
19	蒲田中学校の入学を希望する場合はどのようなすすめ方をすれば良いでしょうか。	蒲田中学校においても、小学校の自閉症・情緒特別支援学級と同様の流れとなります。
20	中学校からの入級を検討しているのですが、小学校から自閉症・情緒障害特別支援学級に入っておいた方が入りやすいですか。今は知的固定級にいます。知的固定級からの入級は可能ですか。	小学校から入級していたとしても、中学校への入級は新たに就学相談を申込み、就学支援委員会において入級が適切かを判断します。自閉症・情緒障害特別支援学級は、知的発達に遅れがない児童・生徒が入級対象となっております。
21	トライアル制度のようにお試して体験できる制度があれば良いと思います。子供が自分が自閉症だと知らない場合にはどのように告知すれば良いでしょうか。また、事前の告知は必要ですか。	お試して体験できる制度はございませんが、入級を検討する際に学級を見学していただくことは可能です。本人への告知については、主治医等にご相談いただくことが必要と考えられます。入級にあたって事前の告知が条件ということはありませんが、自閉症・情緒障害特別支援学級に入級することは現在の在籍学級から転学となりますので、お子さん自身がよく理解したうえで申し込みいただくようお願いいたします。
22	大森東小学校や嶺町小学校、蒲田中学校の見学をしたいのですが、可能でしょうか。	見学は可能です。しかし、いつでも可能ということではないので、各学校の副校長へご連絡いただき、事前に日程調整をお願いいたします。
23	小学校は自宅から最も近い自閉症・情緒障害学級設置校を指定するということですが、仕事の関係で送迎しやすい、学校が近いため知り合いが多く、それを苦に行き渋りをしないか心配といった事情を汲んで、最寄りでない学校を希望することは可能でしょうか。	初回の面談の際に、最も近い学校をお示しさせていただいた上で、変更したい御事情があるのかご確認させていただき、変更の可否を判断します。
24	就学支援委員会は、保護者の意見が最も尊重されるのでしょうか。	就学支援委員会については、行動観察や医師の診断書、発達検査の結果、就学相談員とのお話を基に、お子さんの様子、保護者のご希望、在籍校の考え、医師、就学相談員、指導主事等の幅広い意見と検討を加えて、お子さんにとって学びの場としてどこが最も良いのかを検討させていただきます。

25	池上での行動観察はどのくらいの日数がかかるのでしょうか。	参加いただく日数は1日(1時間程度)となります。
26	途中で自閉症・情緒障害特別支援学級での支援が不必要と判断され通常の学級へ戻ることはありますか。	保護者の希望がなく、年度途中で就学支援委員会を開催することはありません。本人及び保護者の強い希望がある場合には、通常の学級に転学して指導を受けるようになることも考えられます。
27	道塚小学校も、大森東小学校や嶺町小学校同様に、教室までの送迎となるのでしょうか。	今まで開設した大森東、嶺町小学校については、保護者の送迎は教室まで行っていただいておりますので、道塚小学校についても同様に行っていただく想定でございます。 送迎時にお子さんの家庭での様子を伺うことが重要な情報共有の場となっております。
28	毎日送迎が難しいという状況です。送迎の支援をいただけるようなものがあればご検討いただいたり、ご紹介いただきたりしないでしょうか。移動支援を検討しましたが、特別支援学級の場合、校舎の中まで連れてきてほしいとのことですが、移動支援は玄関までです。そうすると、家族が送迎をするしかなくなってしまいます。スクールバスでなくても良いですが、ほかにも移動支援みたいなものが利用できるよう検討していただけないでしょうか。	教育委員会として移動支援のようなものを準備することは、現時点では想定していません。 移動支援は玄関までということですが、玄関から教室まで一人で移動することが安全にできることを入級後に確認したうえで、玄関までの送迎で可能かのご相談となります。
29	負担があってもいいので、移動支援を検討していただきたいです。	教育委員会として移動支援のようなものを準備することは、現時点では想定していません。
30	原則保護者の送迎が全学年必要とのことですが、既に習い事で近所までに来ており、往復する能力があります。原則の拘束力はどこまでありますか。	入級後、1人で通学することが安全にできることを確認させていただいたうえで、学校と相談となります。
31	放課後デイサービスの方が迎えに行くことは可能でしょうか。	今まで開設した大森東、嶺町小学校については、保護者の送迎は教室までおこなっていただいておりますので、道塚小学校についても同様に行っていただく想定ではございます。ただし、迎えに関しましては、学級全体で下駄箱まで行くことも想定されますので、迎えは放課後デイサービスの利用が可能な場合もあると考えられます。
32	学童保育を申し込む際に支援級に在籍していることは加点対象になりますか。	特別支援学級に在籍の方は、加点対象となります。1～3年生は8点、4～6年生は13点が加算されます。
33	道塚小学校の2学級のクラス編成は低学年、高学年で分かれるのでしょうか。それとも1年生から6年生まで混在してクラス編成を行うのでしょうか。	実態に応じてのクラス編成となります。大きくは学齢にわけるとは推察されますが、これも確定的ではございません。 こどもたちがより気持ちよく過ごせるように配慮し、学校でクラス編成を行います。
34	1学級に複数学年がいて学ぶということがイメージできないのですが、どのようなかたちで授業が行われるのでしょうか。	自立活動は学年を混在させて全体で実施しています。 拠点地は特別支援学級ですが、他の時間は、可能な限り当該学年の通常学級に行き、授業を受けるというのがオーソドックスなイメージとなります。 ただし、児童・生徒の実態に併せて、個別ブースで指導することもございます。
35	現在サポートルームを利用していますが、特別支援学級との違いは、時間が増えるというようなイメージでしょうか。	母体となる学級が異なりますので、サポートルームの場合は、通常学級から抜けていくこととなります。それに対し、特別支援学級は、通常学級に出向くようになるため、そこがサポートルームとの大きな違いになると考えられます。
36	自立活動は、現在サポートルームで実施しているようなSST(ソーシャルスキルトレーニング)にあたるものなのでしょうか。	概ねそうにご理解いただけたらと思います。自立活動は、通常に過ごした際に起こりうる様々なトラブル等を解決するためのリハーサル時間であり、交流及び共同学習を自信を持って行えるようにしていきます。

37	交流及び共同学習は1クラスの8名で実施するのでしょうか。	8名で実施する、8名をグループに分けて実施する、個別に実施する3パターンが考えられます。
38	一般教科に関しては、通常の学級に交じって授業を受けるのでしょうか。	自閉症・情緒特別支援学級の児童・生徒は当該学年の通常の学級に行き、自立活動で学んだことを活かしながら、通常の学級の児童と共に学習をします。児童・生徒の状況に応じて個別に学習をすることも考えられます。
39	実際に入級している児童に改善等がみられているのでしょうか。	集団の中に入ることが難しく、自閉症・情緒障害特別支援学級に入級前は不登校の状況であったお子さんが学校に通えるようになったり、通常の学級の授業に参加する共同学習や遠足、運動会、移動教室等に参加する交流学習も児童の状況に応じて実施しており、指導の成果が確実にみられています。
40	通常の学級で勉強するのが難しい(教室に入れない)。児童が同時間に何人もいた場合は全員が自閉症・情緒障害特別支援学級で過ごせるのでしょうか。	本人の特性により、自閉症・情緒障害特別支援学級でも、教室にずっといることが難しい場合も考えられます。その場合は、他教室でクールダウンをさせる等の手立てを講じながら、スモールステップで全体での活動に参加できるようにして支援していきます。
41	交流及び共同学習の際は、必ず介添員が付き添ってくださるのでしょうか。また、普通学級に行った際はどのくらいサポートをいただけるのでしょうか。	児童・生徒及び職員の状況を確認し、誰が付き添うのか、その都度適切に判断していくことになると考えられます。そのため、必ずしも介添員等誰かが付き添うわけではなく、学級担任のみの場合も考えられます。
42	遠足は学級担任や介添員等、学校職員が付き添っていただけるのでしょうか。保護者が付き添う必要はありますか。	保護者の方に付き添っていただくことはないよう、可能な限り対応してまいります。
43	自閉症・情緒特別支援学級の担任は、通常級の教員がなるのでしょうか。	人事のことですので、確実なことは申し上げられないと考えております。現状の特別支援学級の教員は、過去に通級の指導、サポートルームの指導、特別支援学級等で経験を積んだ教員が努めていることが非常に多いです。
44	先生が学級数+1とのことで、各自が教室に行った際や休み時間も付き添うと人数が不足するかとありますが、その際はどうなるのでしょうか。	東京都の基準に沿って行われる教員の配置に加え、大田区で任用する介添員や講師を配置することで、より充実した教育活動の充実を図ってまいります。
45	通常の学級へ行く時に介添員は一緒に行くのでしょうか。	児童・生徒及び職員の状況を確認し、誰が付き添うのか、その都度適切に判断していくこととなります。そのため、必ずしも介添員等誰かが付き添うわけではなく、交流及び共同学習を行う先の学級担任のみで指導や支援を行う場合も考えられます。
46	8人×2クラスとして、先生、補助の方、介添員の方、トータルで大体何名ですか。	配置人数については、新年度が始まってからしかお伝えできません。
47	通常のカリキュラムを減らして自立活動を行うことによって、受験等が不利になることはないのでしょうか。	自立活動を実施した方が、基礎学力が身につくという前提の上で、授業に代えて組み込んでおります。
48	私立の中学を受ける予定なのですが、小学校から提出する書類に特別支援学級に在籍していたという内容の記載はされますでしょうか。またその記載によって不利になることはありますか。	公立の中高一貫の学校に通う場合は、不利になることはございません。私学の場合は、当該学校ごとの判断となります。提出先より求められた書類に応じて記載するため、クラス等を記載する欄がありましたら、現状をそのまま記載することになります。

49	<p>入級後不登校になった場合の対応について、不登校になった場合は退級しないといけないのでしょうか。また通常級に転学しないといけないのでしょうか。不登校などで退級になった場合は、学区内の学校に転学になりますか。</p>	<p>入級後不登校になった場合は、まずは登校を促させていただきます。不登校となった際は、今後どうするかを検討していただくこととなりますので、現時点でのお答えは難しいと考えております。今後どうするかという検討の中で、つばさ教室の利用等が適切であるとなった場合には、退級等の選択肢もありうると考えております。</p>
50	<p>既に開設している学校で、実際に不登校になった人はいるのでしょうか。</p>	<p>皆さん登校はしていると学校から聞いております。</p>
51	<p>つばさ教室に在籍していますが、併用はできますか。</p>	<p>自閉症・情緒障害特別支援学級は登校することが前提となりますので、つばさ教室との併用はできません。</p>
52	<p>毎年1校ずつこういった学校が増えているようですが、令和9年度以降で情緒固定級の更なる新設は予定していないのでしょうか。</p>	<p>段階的な整備を小学校3校、中学校1校と進めて参りましたが、令和9年度以降の設置については、現時点では未定です。就学相談の状況や、指導の成果等を確認しつつ、今後については調査・研究して参ります。</p>
53	<p>令和6年度から自閉症・情緒特別支援学級を開設して課題があれば教えていただきたいです。</p>	<p>通学負担は一つの課題ではあるかと思えます。負担を考慮し、小学校については大森・調布・蒲田地域に各1校ということで開設を進めているところではございますが、知的障害特別支援学級と比較すると、設置数が限られています。入級可能な人数に対し、入級希望者が多く、ニーズが高まっていることから、課題や成果を確認しつつ、整備を進めているところでございます。一方で、集団の中に入ることが難しく、自閉症・情緒障害特別支援学級に入級前は不登校の状況であったお子さんが学校に通えるようになったことや、交流及び共同学習も前向きに取り組んでいるといった、指導の成果が確実にみられていると学校から聞いております。</p>